

教育同窓会 会報

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

- ・教育学部
- ・人間社会学域
　　学校教育学類
- ・大学院教職実践研究科
- ・養護教諭特別別科

第 15 号 2025.3.19



学校教育学類の現状について

学校教育学類長
辻井 宏之

2024年4月より学類長を務めております。このたびは、本学類の現状について同窓生の皆様にご報告したいと思います。

まず、令和6年能登半島地震および9月の奥能登豪雨により被害に遭われた全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。被災地の復旧・復興に向けて、学校現場や地域においてご尽力されている関係者の皆様に深く敬意を表します。金沢大学は、同年1月に能登里山里海未来創造センターを設置し、能登の創造的復興に向けて取り組みを始めたところです。その一例として、2025年度より開設される「防災・復興人材特別プログラム」により、地域の復旧・復興や、社会の防災・減災に貢献できる高度人材を育成しようとしています。学校教育学類は当初のプログラム開設学類のひとつとして、災害の際にも子どもたちを守り、子どもたちの発達や成長を保障するための方法を、学校教育という視点から学ぶことのできる科目等の開講を準備しています。また、学類教員の力を借りながら、子どもたちの学習支援や様々な交流活動に取り組んでいるところです。今後も、学類として能登地域の復旧・復興に尽力いたします。

さて、現在の教育課程への変遷を少しだけふり返ってみたいと思います。まず、2008年には従来の学部制から学域・学類制へと組織再編が行われました。教育学部から学校教育学類と姿を変え、入学定員100名の教員養成に特化した組織となりました。そして、2022年には、富山大学との共同教員養成課程(入学定員各85名)が発足しました。その前年にこれまでのカリキュラムで入学した最後の学生の皆さんが、2025年のこの春に卒業を迎えることになりました。

ここで、大学間連携の仕組みとして整備された共同教育課程について、少し説明をしたいと思います。この制度は、経済・社会のグローバル化に伴う国際的な大学間競争の中で、複数の大学がそれぞれ優位な教育研究資源を結集し、共同でより魅力ある教育研究・人材育成を実現するために整備されました。当初は共同獣医学科等の設置にこの制度が活用されていました。2020年には宇都宮大学・群馬大学に共同教育学部が設置され、金沢大学と富山大学の共同教員養成課程は、教員養成としての2例目のものとなっています。

共同教育課程においては、ひとつの大学が開設する授業科目を、他の大学の教育課程の一部とみなし、同一内容の教育課程を構成します。学生には所属する以外の大学において最低限取得すべき単位数についての規定があり、通常の学士課程では31単位以上の取得が必要となっています。このため、Zoomや双方向遠隔授業システム等を利用して、所属大学に居ながら両大学の授業を受講できる体制を整備しています。教育方法など、まだまだ改善するべきことがあります。ふり返ってみると、コロナ禍での遠隔授業の経験が今になって活かされていると感じます。

学校教育学類共同教員養成課程の特徴は、福祉や情報に関する教育を含めて富山大学人間発達科学部(教育学部に改組)が培ってきた広い意味での教育人材養成と、教育学部の頃から金沢大学が長く培ってきた学校教員養成を融合させた課程であることです。多様化・複雑化する学校教育を取り巻く環境に対して、お互いの強みを活かしながら、現代的教育課題に対応できる実践的能力を備えた教員を養成するよう、教員一同、努力してまいります。



シリーズ 大学を訪ねて⑪

金沢大学人間社会学域学校
教育学類附属特別支援学校

副校長 鶴尾 千亜紀



【概要】

本校は、昭和24年(1949年)石川師範学校附属小学校に設置された特殊学級、昭和27年(1952年)同附属中学校に設置された特殊学級を前身とし、昭和39年(1964年)に県内で初めての知的障害教育の養護学校となり現在に至っています。

小学部・中学部・高等部の3学部からなり、児童生徒の総定員が60名の学校です。今年度開校60周年を迎える、本校を卒業していた卒業生は500名を超えるました。教育目標を「心身の発達に遅れや障害のある児童生徒に対して、その実態に即した指導を行うことにより、一人一人の全面的な発達をうながし、その子らしく精一杯生きる力を育てることをめざす」と定め、小規模な学校である特徴を活かし、教員が互いに協力しあって子ども一人一人の育ちを大切にしながら教育を行っています。

また本校は国立大学附属学校としての使命も担っており、その一つが教員養成への貢献です。毎年教育実習をはじめ教員養成のための様々な実習を受け入れ学生の指導にあたっています。教員として第一線で活躍されている先生方の中には、学生時代に本校で実習を経験された方が多くいらっしゃると思います。もう一つの使命は、教育に関する先導的研究の推進です。これまで金沢大学の先生方と連携し、児童生徒の自立・自己実現の育成を目指した教育実践を行い、その成果を毎年全国に発信してきました。これまで本校が大切にしてきた良き伝統を守りながら、これから時代に必要とされる附属学校を常に問い合わせ、改革の歩みを進め、附属学校の使命を果たして参りたいと思います。

【研究】

令和3年度から文部科学省研究開発学校の指定を受け、研究テーマを「自立と社会参加のための国語力を育む教育課程の探究」とし国語科についての研究を行っています。小学校と特別支援学校との学びの連続性という研究開発課題に取り組み、最終年度となる今年度は、成果と課題を明らかにし研究成果としてまとめ、発信しました。



60周年を迎えてきれいになった校舎

【特色ある活動】

本校では児童生徒の自立と社会参加を目指し「在学中から地域で生きる力を育てる」をモットーに、地域の高齢者施設やこども園、地域住民など多様な人たちとの共同・協働学習を推進しています。小学部では毎年地域の方とサツマイモの苗植えや収穫を一緒に行っています。高等部では、5年前から地域の社会福祉協議会主催のバザーに参加し準備や運営のお手伝いをしたり本校のクッキーを販売したりしています。その他さまざまな学校行事にこども園の園児や地域の方が参加するなど交流が盛んに行われています。



【小学部】地域交流 一緒に芋ほり



【中学部】学校園連携 附属高生との授業

また、金沢大学附属5校園(幼・小・中・高・特支)が連携して学習するなど、学校の垣根を越えた取組が行われています。今年度中学

部が取り組んだ手取川全域のフィールドワークでは、附属高校の生徒、先生、校長先生も清掃活動に参加し一緒に活動しました。また、河川で拾ってきた石の種類の分析を附属高生に依頼したところ、沢山の資料を基に分析し、本校の子どもたちに寸劇を交えて楽しく説明してくれるなど、子どもたちの学びに力を貸してくれました。



【高等部】地域交流 味噌藏バザークッキー販売

【最後に】

2024年1月の能登半島地震が起きた時、避難訓練で練習した「命を守る行動」をとることが出来た児童生徒が多くいました。突然の災害に強い不安や恐怖に襲われる中、学んだことを活かして行動することができた子どもたちに「生きる力」の育ちを感じ、また日々の学習の積み重ねの大切さを実感しました。今後も子どもたち一人一人の可能性を広げ、確かな「生きる力」を身につけられるよう、全力で取り組んでいきたいと思います。

学校教育学類 保健体育専修の紹介

私たち保健体育専修です！

学校教育学類保健体育専修では、中・高保健体育科の免許取得を目指し、岩田英樹先生、増田和実先生、山田哲先生、横山剛士先生のもとで学んでいます。

2~4年全ての合同の授業もあり、スポーツを通して学年を越えて仲が良くなり、楽しい雰囲気で授業内外でもコミュニケーションをとり、お互いに刺激し合い、高めあっていきます。今年は、バレーボールを全学年合同の14人で楽しんで行っています。

私たち保健体育専修は、部活動においてもそれぞれの専門競技を一生懸命に頑張っています。最近の記録は、女子剣道部において第41回全日本学生剣道優勝大会に出場や、陸上部の北日本学生陸上競技対抗選手権大会において3位入賞などです。今後も部活動において各々が好成績を残せるように頑張っていきます。

授業はどれも楽しく学ぶことができます。特に印象に残っている授業は、北野孝一先生(*)のサッカー教室です。そこでは、小学校低学年のサッカードリルを行いました。大学生の私たちでも楽しく真剣に授業づくりのノウハウを体験しながら学ぶことができ、教員としての知識

や教養を学ぶことができました。（*:元金沢市小学校教諭、現在石川県サッカー協会会長）

卒業研究では、上記の先生の学校保健、生理学、バイオメカニクス、学校体育の4つの分野に分かれて3年次から本格的に動き出します。他専修との違いは、約2年間研究室に所属し、じっくりと自分の興味のある分野について基礎知識をつけながら卒業論文を書けることができます。また、今年から卒業論文発表会に加えて、中間発表会が開催されるようになりました。2年生にとっても早くからそれぞれの分野がどのようなことをしているか学べるよい機会となっています。また、2、3年生や先生方の質問や意見によって全員で4年生の卒業論文を深め合っています。



バレーボールの合同授業(2~4年)

2024(令和6)年度 教育同窓会代議員会報告

2024(令和6)年度代議員会は書面附議にて行いました。議件は以下の通りです。

- 第1号議案 2023(令和5)年度
事業報告・会計決算報告・監査報告
第2号議案 2024(令和6)年度
役員の一部改選
第3号議案 2024(令和6)年度
事業計画案・予算案
第4号議案 2025(令和7)年度以降の事業計画案

これらはいずれも賛成多数で承認されました。会計決算報告は右の通りです。特に事業支出に対して、収入である新入生からの会費納入が少ないため、2026年度以降は費用が足りなくなる可能性があります。そのため事務局より会報の全会員への送付を停止するという第4号議案についても承認されました。

4ページにはそのお知らせを掲載しています。

教育同窓会 会計決算報告(R5年度)

令和5年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告
(2023.4.1~2024.3.31)

【収入】

項目	金額(円)	備考
1 繰越金	1,690,528	
2 会費	832,647	新入学生終身会費(42名)
3 利子	15	
合計	2,523,190	

【支出】

項目	金額(円)	備考
1 会議費	5,680	会計監査会
2 通信費	24,067	住所変更連絡等料金後納郵便料 事務連絡費
3 事務用品費	49,082	プリンタ新規購入、インク、印刷用紙
4 分担金	0	
5 印刷発送費	1,145,842	会報No.14印刷発送
6 慶祝費	150,000	卒業祝い図書カード(1,000円×150枚)
7 その他	0	会報執筆お札は卒業祝い図書カードの残りから
合計	1,374,671	

収入総額 2,523,190 - 支出総額 1,374,671 = 1,148,519

【差引残高】 1,148,519円は2024(R6)年度事業に繰り越し。

☆☆☆基金・学友支援室からのお知らせ☆☆☆

令和7年度の第19回ホームカミングデイは、11月1日(土)に開催! 同窓生の皆様、久しぶりに青春の学舎に寄りませんか!

昨年、令和6年11月2日(土)、本学角間キャンパスにおいて、第18回金沢大学ホームカミングデイを開催し、歓迎式典、特別講演会、懇親交流会を実施しました。今回より金沢マラソンとの日程の重複を避け、例年より一週遅い開催となったことから、例年を上回る200名を越える同窓生等にご出席いただき、盛況な一日になりました。

歓迎式典では、歓迎式典では、最初に金沢大学合唱団が校歌を斉唱した後、和田隆志学長から歓迎あいさつと本学の近況報告、金沢大学学友会会长の安宅建樹氏からあいさつがありました。

続いて、3名の本学学生から、学生の活動報告として、留学体験、大学院生研究活動、課外活動団体活動に関する発表がありました。まず、ベルギーに留学した学生からは海外での留学体験を通して学んだことや将来の目標などが語られました。さらに、大学院で研究を行う学生からは、現在行っている研究の内容や研究の魅力などが語られました。最後に、課外活動団体活動報告では、体育会ヨット部から、令和6年能登半島地震により受けた影響の報告、各方面からの多大な支援に対する感謝、七尾湾での活動再開を目指す強い覚悟などについて、報告が行われました。現役学生の活躍ぶりに多くの同窓生が温かい眼差しを向けていました。

本年度は新たに若手研究者および卒業者の報告時間を設けました。まず、本学融合研究域融合科学系の藤生慎准教授からAIを活用した被災建物の損傷程度の自動判定システムや避難所の開設状況の分析に関する研究を報告しました。さらに、卒業者の活躍報告として市立輪島病院長(昭和58年医学部卒業)の呂川誠氏より、市立輪島病院における能登半島地震への対応について報告がありました。

その後、特別講演では、元北陸財務局長の西田直樹氏(昭和57年法文学部卒業)が「地域金融行政の歩みについて」をテーマに、バブル崩壊後の地域金融機関の破綻処理や東日本大震災からの復旧・復興への金融面での対応などについて講演がありました。

夕刻からの懇親交流会は、立食形式で開催され、学生時代を懐かしみながら思い出話に花を咲かせていました。さらに、若手同窓生に向けた新たな企画として、卒業から10年・20年を経過した方を対象したランチ交流会を今年度新たに開催し、参加者は卒業後久しぶりに再開する同期との交流を楽しんでいました。

次回については、令和7年11月1日(土)に第19回ホームカミングデイを開催することとしました。同期生・サークル仲間の皆様におかれましては、是非とも懐かしい母校にお越しいただきますよう、お願い申し上げます。

○金沢大学ホームカミングデイ

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/social-engagement/use/homecoming>

会報の全会員配付停止のお知らせと情報登録のお願い

代議員会報告でもお伝えしたように、支出の大半を占める全会員への会報印刷発送費に対して、収入である新入生からの会費納入が下回っています。大学の新入生定員そのものの減少に加え、会費納入率も50%を切り、このままでは予算不足となります。そのため、2025(令和7)年度をもって会報の全会員配付を停止いたします。

今後も会報の発行は続け、在学生、卒業生、大学職員には紙媒体の会報を配付しますが、会員のみなさまには教育同窓会ウェブサイトにてご覧ください。

なお、住所変更ハガキの同封もなくなるため、住所変更、改姓等の連絡もウェブサイト内の連絡用フォームにてお願いします。名簿は同窓会の連絡、大学からのお知らせ等に重要な役割を果たします。変更がありましたら必ずお知らせください。

また、今後電子メール等で会報の発行やウェブサイトの更新をお知らせすることも視野に入れて、連絡フォームより携帯電話番号、メールアドレスを登録していただくようお願いいたします。

○教育同窓会ウェブサイトURL

<https://www.sakane.net/kanazawa-u-kyoikudosokai/>



★同窓会情報を寄せください★

同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催情報を、回封の返信用はがきで事務局までご一報ください。情報をお知りの方、どなたでも構いません。会報に同窓会情報として掲載します。幹事様のお名前をご連絡ください。

また、同窓会を開催するために、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局】〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学事務局 基金・学友支援室

TEL 076-264-5075

gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

編集後記

会報15号を発行いたします。ご協力いただいた執筆者の皆様に心より感謝申し上げます。次号から会報の発行が変更となります。これまで同様のご愛読をよろしくお願ひ申し上げます。
(中村)